広報 すぎなみ
Suginami
4/15
平成30年（2018年）
No.2227

支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

杉並の街を彩り 笑顔の花咲く。

区民による花壇づくりボランティア「花咲かせ隊」が大切に育てた花々が、春の訪れとともに公園や緑道を彩るようになりました。花壇づくりを楽しみながら、潤いと安らぎのある街づくりに携われる活動として「花咲かせ隊」は年々広がりを見せており、今や会員数約1100名。その魅力を、ご近所同士で協力し合いながら桃園川緑道の花壇づくりに取り組んでいる3グループの代表者の方々に伺いました。

Contents ―主な記事―

5｜「待機児童ゼロ」を実現しました　6｜5月は杉並区の自殺予防月間です　7｜区民相談　10｜なかま集まれ！　16｜今年も始めます！すぎなみ美活club

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：http://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

広報すぎなみは月２回（１・15日）発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

ご近所同士が協力してつくりあげたものを、たくさんの人に楽しんでもらえるのはすごいこと。

すぎなみビト

interview

花咲かせ隊

—花咲かせ隊に参加するようになったきっかけを教えてください。

鳥山：花咲かせ隊の募集が初めてあった12年に、ご近所の方が立ち上げた「ひまわりグループ」に誘われて参加しました。その方は地域活動にとても積極的だったのですが、私も同じように地域に密着していきたいと思っていたので、喜んでお誘いを受けました。

小林：私のきっかけは、ひまわりグループさんの花壇づくりを見たことです。うちには庭がなかったので、近所でお花を育てられるチャンスがあるなら、ぜひ、やってみたいと思いました。ですから2期目の募集があると聞いたとき、すぐにお友達に声を掛けて「桃園グループ」を作りました。

竹田：10年ほど前、今の住まいに引っ越してきたときのことです。よく手入れされた花壇が家の前の通りに並んでいるのを見て、素敵な場所だと喜んでいたのですが、なぜかうちの前には花壇がなかったんですよ。それがショックで、たまたま花壇を見回りに来ていた杉並区の方に「どうにかならないの」と尋ねたところ、「花咲かせ隊をやってみますか」と勧められました。それからご近所に声を掛けて「あおぞらグループ2007」を結成しました。

—メンバーは、すぐ集まりましたか。

竹田：申し込みに必要な5人はすぐにそろいました。10人、20人の活動だと人集めは大変だったと思いますが、5人からだとご近所同士で気軽に始められていいですよね。

—植える花やレイアウトは、皆さんが中心になって考えるのですか。

鳥山：実は、ひまわりグループには以前花屋さんを営んでいたメンバーがいるので、いつもアドバイスしてもらっています。「夏の花なら、インパチェンスやニチニチソウが丈夫でいいよ」「マーガレットは3色あるけど、白は寂しくなるから黄色やピンクが多い方がいい」というようにポイントを教えてもらえるので、その意見を参考にしながら、メンバーの好みも取り入れてレイアウトを決めます。誰かが引っ張るということではなく、お互いの意見を尊重するようにしています。

小林：私は、同じグループで一緒に活動している義妹とで相談して決めることが多いですね。アクセントになる黄色をどこかに入れるようにしたり、真ん中に背の高い花を、両サイドに低い花を植えたりするなどして、全体のバランスにも気を使っています。

竹田：夫のリクエストを基に花を選んでいます。夫は花が好きで詳しいんです。反対に私は詳しくないので、「これかわいい」と言って選ぼうとすると「その花は咲かせるのが難しい」とか「枯れやすい、虫がつきやすい」などと指摘されるので、「もういい、早く選んでよ」と言って任せてしまいます（笑）。

プロフィール：鳥山由子（とりやま・ゆうこ）。12年から「ひまわりグループ」として活動。小林みつえ（こばやし・みつえ）。13年から「桃園グループ」として活動。竹田真矢（たけだ・まや）。19年から「あおぞらグループ2007」として活動。全員、桃園川緑道の花壇を担当している。

花咲かせ隊 随時募集中

区内在住の方５人以上で継続して活動できる場合に、区に申し込みをして、希望する区立公園で花壇への草花の植え付けおよび草取り・水やり等の日常の維持管理を行っていただきます。区では年３回（５・９・１２月）花苗を配布するほか、スコップ・ジョーロなど園芸用具の提供、ボランティア保険への加入等の支援をします。

問みどり公園課みどりの協働係

—ご家族の協力があるのは頼もしいですね。

竹田：花壇づくりでは重労働も多いので、夫と息子の協力は、とても助かります。季節ごとの土の掘り起こしだけは男手がないとできませんから。

鳥山：私たちのグループでも、力仕事はメンバーの元花屋さんや夫が積極的に引き受けてくれますよ。花屋さんの作業は、本当にテキパキとしています（笑）。

小林：私の夫も、土の掘り起こしをはじめ、大変なことをパパッとやってくれますね。

竹田：そういうところは、3グループともよく似ていますが、じっくり観察していると、グループごとの個性が見えてきます。ひまわりグループさんは、いつも皆さん総出で花壇づくりに臨んでいて、協力し合っているのがよく分かりますし、桃園グループさんも分担をちゃんとしてテキパキやっています。それに対してうちはいつものんびりマイペースです。

—この活動にやりがいや喜びを感じるのは、どんなときですか。

小林：通り掛かりの人に声を掛けられるとうれしいですね。花の世話をしていると、必ずといっていいほど声を掛けられます。

竹田：「いつもありがとうございます」とか「きれいですね」と、よく言われるよね。写真を撮っていく方も結構いますし、中には、花を見ながらお弁当を食べていらっしゃる方もいます。そうやって楽しんでもらえると、やっぱりうれしいですね。

鳥山：うれしいことといえば、数カ月前に植え付けたお花がちゃんと育ってくれて、きれいに咲いてくれることが何よりもうれしいです。

竹田：それもよく分かります。例えば冬の間、雪に埋もれていた花が春先になってパーッと咲いてくれたのを見たとき「すごい！」と思いますし、この花を選んでよかったと思います。時には枯れかけていた花が復活して花を咲かせることもありますが、そんなときは「生命力ってすごい」と感動します。

小林：私も春先が一番好き。花壇の前を通った保育園のお子さんが、花の周りにチョウが飛んでいるのを見て喜んで、「お花きれいだね」って言ってくれるんです。そんなとき、「花壇づくりをしていて本当によかった」と心から思います。

—皆さんの活動が地域を明るくしています。

竹田：特別なことをしているつもりはないんですよ。花壇づくりの楽しみがまずあって、それが結果的に地域の方々に喜んでもらえているのではないでしょうか。そんな花たちをこれからも大切に育てていきたいですし、皆さんにも大切にしていただければと思っています。

鳥山：土いじりは、やっぱり落ち着きます。そういう自分が好きなことをやりながらつくった花壇が、通り掛かる人にとって憩いの場所、安心できる場所になればいいと思います。そういう場所づくりに関わるということが楽しいですし、日常を忘れて、花壇づくりに集中できるのは幸せなこと。花咲かせ隊の活動をしているときは、充実していると感じます。

小林：通勤通学の方々だけでなく、散歩中のお年寄りや、リハビリで緑道を歩いている近くの病院の患者さんも、私たちがお世話した花を見てとても喜んでくれます。ご近所同士が協力してつくりあげたものが、地域に住むたくさんの人に楽しんでいただけているのだとしたらすごいことです。私たちがずっと続けていられるのも、そう感じられるからだと思います。先ほど話したように、自宅に庭がなかった私は、花壇づくりを楽しんでみたくて花咲かせ隊に参加したのですが、今では自分が楽しむのはもちろん、地域の皆さんにも喜んでいただいています。こんないい活動は、ほかにないと思います。

他にもこんな“花咲かせ隊”

家族で“花咲かせ隊”「ケ・セラ・セラ」（金城さんファミリー）

私たちが公園のすぐ隣に越してきたのが2年前。休憩する方も多いのですが、あまりきれいな感じがしなかったんです。お花でいっぱいにすることでポイ捨てなどがなくなり、公園に来る方が季節を感じてリラックスできればと思ったのが花咲かせ隊を始めたきっかけです。農園を借りて野菜を家族で一緒に育てた経験もあるので、花咲かせ隊も自然と「家族で」ということになりました。

土を軟らかくしたりなどの力仕事は主人と息子ががんばってくれます。お花が届いたら家族で花壇のデザインを考えて、植え付け作業を行います。

子どもたちが成長し、忙しくなってきた今だからこそ、家族で一つの作業をして、きれいな花壇ができていく過程がとても楽しいです。小さな小さな公園ですが、ちょっと奥をのぞいてみてください。きれいな花壇がありますよ。季節のお花を目と鼻で感じてもらえたらうれしいですね。

（上荻窪第三児童遊園）

会社で“花咲かせ隊”「そうけんガーデナー」

私たちは「環境にやさしい家創（づく）り」を考える会社として、まず社員自身が「環境のことを考える人間」でありたいと思っています。そんな中、花咲かせ隊の「地域の公園を明るく・楽しく、安心して利用できる場所に」との思いに共感し、参加を決めました。

社員全員が交代で花壇管理や公園清掃を行っていますが、自然環境に対する意識の向上とともに、活動を通じて社員同士のコミュニケーションも育てられます。うまく育たないこともあり四苦八苦していますが、花が咲いたときの喜びはとても大きく、次のやりがいにつながります。

公園を訪れる方、散歩をする方などさまざまな方が四季折々の草花を見て安らぎを感じ、「またこの公園に来たい」と笑顔の花を咲かせてくださればと思います。

地域の方々に自然豊かな暮らしをしていただくために、今後も人と地域にやさしい活動に取り組んでいきたいと思います。

（与謝野公園）

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。